

友史会 2025 年 9 月 70 周年記念特別例会

## 「オオヤマト古墳群を巡る ～纏向遺跡から黒塚古墳へ～」

令和 7 年 9 月 21 日(日)

行程: JR 巻向駅→纏向遺跡(辻地区)→纏向石塚古墳→箸墓古墳→ホケノ山古墳  
→珠城山古墳群→相撲神社→渋谷向山古墳(景行天皇陵)→櫛山古墳  
→行燈山古墳(崇神天皇陵)→黒塚古墳 解散

案内: 青柳泰 檀考博学芸課長

【感想文 9 月特別例会だより】

【再びのオオヤマト古墳群—日本の元へ—】

「歩く例会」はあちこちに行かれましたが、友史会七十周年記念の行き先は、元に戻ってオオヤマト古墳群。「これで秋?」と思う夏の暑さが二三日前に収まって、有り難かったです。

構えていたら、青柳先生は「ここは専門ではないので、普通のこと以外を話します。本を見て」と言われ、気楽になりました。参加者が三三〇人超と多く長蛇の列になり、道中の広い所に集まって静かに聞いたのも良かったです。

【纏向遺跡】の大型建物群の中心線の延長が穴師山で、三世紀までは人々の思いの全てがこの山に向かい、三輪山になったのは五世紀からだそうです。山頂が尖った三角形の穴師山は、不思議です。出現期のまき向型前方後円墳が多い。ここ太田の住人によると家がたくさん建ち始めたそうで、また景観が変わって行くのでしょうか。

【箸墓古墳】は、列島最初の大型前方後円墳。段築。主軸の正面が穴師山。二十世紀の終わり大型台風に襲われ、宮内庁が調査に入って土器が沢山見つかりました。前方部から二重口縁壺。外側に円筒埴輪。

【庄内式、布留式?】庄内式土器は、昭和十一年に大阪・豊中市庄内で見つかり、ヤマト政権が始まった 3 世紀前半。「大阪で見つかったんやて。しょうないやん」。布留式土器は、昭和 13 年に天理市の布留遺跡で出土し、ヤマト政権が発展した 3 世紀後半から 4 世紀。「ふろしきやないし」。盆地の纏向に三世紀前半の庄内式土器、小高い珠城山に三世紀後半の布留式土器ですね。

【ホケノ山古墳】纏向型で、前方部が低い。後円部が削平され、元は高かったそうです。箸墓古墳に先行する時期の、半島由来かと思われる石囲木槨。箸墓に似た壺の配列で、二重口縁壺が博物館に。横穴式石室の方は、激しく盗掘されたそうです。古墳時代の初めと終わりの石室が同居する珍しい古墳。穴師山がきれいでした。昼食時、皆が話しかけ、先生は食べられなかったかも。列品解説の日も休めないそうですから、気を付けましょう。

【渋谷向山古墳】4 世紀中頃か後半で、長さ 300m。形象埴輪や碧玉製石枕が出ています。ここを作る時、「宮があった」という碑があったと思われるそうです。

【櫛山古墳】長さ一五五 m の双方中円墳。古墳時代前期後半で、最古級の木棺が出ています。碧玉製の腕飾りは最多。

【行燈山古墳】四世紀前半で、長さ三六〇m。周壕から、珍しい内行花文鏡風模様の大型銅板(70×50cm 程)が出ました。

【足】約十<sup>キ</sup>の行程の後半は歩くのがやっとで、話も聞けなくなりました。平気な若者たちが先生に考古学の進路を尋ねる姿に、羨望を感じました。

【黒塚古墳】4 世紀中頃。朱色の中に多数の鏡が出たことで有名ですね。水が出にくい地域で、堤は、採掘の為に掘られたそうです。古墳に上がると、北にワニ氏の地域、西

に二上山・奈良盆地が見えるそうです。昔は家が少なくて、景色が良かったでしょうね。

【奈良盆地】扇状地（木曾三川地域）にいる私には、広い盆地に溜め池が点在し、多くの川が大和川に合流して行く地形が不思議に見えます。大昔に、「古奈良湖」があったんですね。生駒・金剛山地の間から河内に段々排水されて人が入り、名残の池を利用して遺跡などができました。山辺の道が曲がりくねっているのは、湖水の周りに作られたからなんですね。

古墳や遺跡を歩くと、当時の人々の姿を思い描けるような気がします。藤ノ木古墳ほどでなくても、他の古墳にも盗掘前は副葬品の光や色が沢山あった筈です。金銀・宝飾品はもとより、古墳の被葬者たちがその光を失わず、「古代の輝き」は未来へと続いていくことでしょう。

岐阜市 三輪久子

[記録写真]



JR 巻向駅 下車の様子



巻向遺跡



箸墓古墳周辺を歩く



箸墓古墳にて説明



箸墓古墳墳丘



稲穂の上ツ道を歩く



ホケノ山古墳 青柳先生(下段 右から3人目)



山の辺の道を歩く



渋谷向山古墳



黒塚古墳 公園にて解散